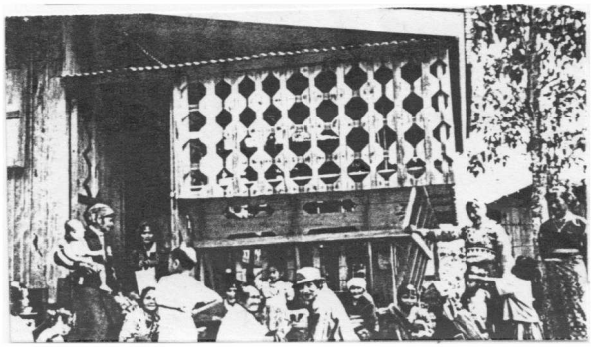
アグロフォレストリー用苗畑。ラワン材用苗やその樹間に植える各種果樹の苗、アバカの苗など育てています。(HANDS 支援事業)

アトゥモロックに至る道の両側にはすでに竹の苗が樹間に植えられていました。侵食止めと3年後から建築材として売るためです。

前の号でサムラングのあひるが卵を産まないとお伝えしましたが、あひるの産卵には休止期間があることが分かったとか。今回訪問した時はまた順調に産み始めたと、飼育責任者(写真:クリニックのヘルスワーカー・オディの夫)は半分に切った古タイヤの餌箱に群がるあひるを見せてくれました。このあひる飼育の目的は、飼育技術を住民に伝えるとともに、売り上げはコミュニティーセンター運営費に使われます。



学校の傍らに建てられた集会室兼家庭科室兼伝統工芸館の周りに集まった村人。(アトゥモロック分校)

HANDS の協力で改築された校舎をバックに、民族の苦難の歴史を創作劇で演じてみせるアトゥモロック分校の子どもたち。

∞ 新校舎の祝別式に参加して ∞

在レイクセブ　森田奈美

テープカットする奈美さん(サムラングにて)

またビラーンのコミュニティーに行くチャンスに恵まれ大変感謝しています。しかも今回は歩くことなくアトゥモロックの地にたどり着く事ができたのでびっくりしてしまいました。それも村人達が校舎の材料を歩いて(!)町から運ぶために道をシャベルでならしたおかげなのです。とはいうものの、「こんな道、車が入っちゃっていいのだろうか?」と思われるような所をいくつもくぐり抜け、ガタガタ道のために車内で何回も飛び跳ねながらの到着でした。

4つの教室のある木造校舎がまず私たちを迎えてくれ、村人たちが“自分たちで建てた”ことに拍手!5月にきた時に、村人たちとの話し合いの中で、「もし私たちに何か支援をして下さるなら私たちも精一杯努力します」という言葉を聞いたのですが、それを本当にやりとげたことに「すごいな?」としみじみ感じました。たとえ板1枚にしても、あのすごい山道を3時間も歩いて運ぶというのは、相当苦しいのです。しかも、子供達も一緒に運んだなんて!私なんて手ぶらで歩くだけでも自分の身体の重さに泣きそうだったのに…。

左:アトゥモロックのコーディネーター/メラニオ・ディアドロンングさん

右:奈美さん